



Sun Blade™ X6220 サーバーモジュール 設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-2090-10 (v5)
2007年7月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されている1つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における1つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス許諾者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティソフトウェア(フォントに関するテクノロジーを含む)は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Sun Netra, Sun Blade, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェイスは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許諾者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェイスの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェイスに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許諾者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許諾者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Sun Netra, Sun Blade et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. サーバーハードウェアのセットアップ 1
 - 設置の概要と用語 1
 - サーバーモジュールの挿入 2
 - ▼ サーバーモジュールを挿入する 2
 - サーバーモジュールの電源投入と電源切断 4
 - ▼ サービスプロセッサの初期設定のためのスタンバイ電源供給 4
 - ▼ すべてのサーバーコンポーネントの主電源を投入する 4
 - ▼ 主電源モードからシャットダウンする 6
 - テスト用ドングルケーブルの使用 6
 - ▼ テスト用ドングルケーブルを使用する 6
2. サーバーソフトウェアのセットアップ 9
 - Integrated Lights Out Manager 9
 - サービスプロセッサについて 10
 - 事前設定された管理者アカウントの概要 10
 - 接続の概要 11

サーバーモジュール ILOM への接続	11
オプション 1: シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続	12
オプション 2: ドングルケーブルによる ILOM への接続	16
オプション 3: Ethernet ポートによる ILOM への接続	18
ILOM IP アドレスの設定	20
ILOM の IP アドレスの表示	21
BIOS セットアップユーティリティによる ILOM IP アドレスの設定	21
DHCP による ILOM IP アドレスの設定	23
CLI による ILOM IP アドレスの設定	24
プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ	27
3. プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定	29
開始前のご注意	29
インストールのためのワークシート	30
プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定	33
▼ サービスプロセッサによるシステムコンソールへの接続方法	33
▼ コンソールの出力のビデオポートへのリダイレクト (省略可)	35
Solaris 10 ユーザーマニュアル	35
Solaris 10 OS のトレーニング	35
Solaris インストールプログラムの使用	36
インストール中の注意	36
Sun Java Enterprise System	36
Sun Studio 11	36
Solaris オペレーティングシステムの再インストール	37
ソフトウェアのダウンロード	37
索引	39

はじめに

本書『Sun Blade™ X6220 サーバーモジュール設置マニュアル』では、サーバーモジュールのシャーシへの設置、サービスプロセッサへの接続、およびプリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定手順を説明します。

UNIX コマンドの使い方

本書には、基本的な UNIX® コマンドや、システムのシャットダウンや起動、デバイスの設定などの手順に関する情報は含まれていないことがあります。このような情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システム付属ソフトウェアのドキュメント
- 次の場所にある Solaris™ オペレーティングシステムのドキュメント

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『User's Guide (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

Sun Blade X6220 サーバーモジュールのドキュメントセットの説明は、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris およびその他ソフトウェアのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

Sun 関連ドキュメント、サポート、 トレーニング

Sun の部門	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Blade X6220 サーバーモジュール製品のアップデートについては、次の Web サイトのリンクを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

該当するハードウェアドライバのセクションを探し、「X64 Servers & Workstations (X64 サーバーおよびワークステーション)」をクリックします。Sun Blade X6220 サーバーモジュールのサイトでは、ファームウェアとドライバ、CD-ROM .iso イメージのアップデートが提供されています。

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6220 サーバーモジュール設置マニュアル』、部品番号 820-2090-10

サーバーハードウェアのセットアップ

この章では、次の項目について説明します。

- 「設置の概要と用語」(1 ページ)
- 「サーバーモジュールの挿入」(2 ページ)
- 「サーバーモジュールの電源投入と電源切断」(4 ページ)
- 「テスト用ドングルケーブルの使用」(6 ページ)

設置の概要と用語

本書では、次の用語の使い方に注意してください。

- 「サーバーモジュール」は、ブレードまたはブレードサーバーのハードウェアを指すものとします。
- 「シャーシ」は、モジュラシステムのハードウェアを指すものとします。

サーバーモジュールを開梱したら、次の作業を行ってください。

1. サーバーモジュールをシャーシに挿入します。
「サーバーモジュールの挿入」(2 ページ)を参照してください。
2. すべてのケーブル、周辺機器、および電源コードをシャーシに接続します。
使用しているシャーシの設置に関する説明を参照してください。
3. サーバーモジュールの電源を入れます。
「サーバーモジュールの電源投入と電源切断」(4 ページ)を参照してください。
4. シャーシまたはサーバーモジュール上のサービスプロセッサを経由して、サーバーモジュールに接続します。

本書では、シャーシ上にサービスプロセッサソフトウェア (CMM ILOM) が構成済みであると想定しています。第 2 章「サーバーソフトウェアのセットアップ」(9 ページ)を参照してください。

5. プリインストールされた Solaris™ オペレーティングシステムを設定するか、必要に応じて、サポートされているオペレーティングシステムをインストールします。
「[プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定](#)」(33 ページ)を参照してください。また、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』(820-2095)または『Sun Blade X6220 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-2100)も参照してください。
6. 必要に応じて、サーバーをカスタマイズします。
詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide for ILOM 1.1.1 (ILOM 1.1.1 管理ガイド)』(820-0280) および『Integrated Lights Out Manager (ILOM) Supplement for Sun Blade X6220 Server Module (Sun Blade X6220 サーバーモジュール用 ILOM 補足ドキュメント)』(820-0047)を参照してください。

サーバーモジュールの挿入



注意 – コンポーネントを取り扱う前に、静電気放電 (ESD) 用リストストラップでシャーシの地金に触れてください。シャーシの前面と背面の両方に接地された場所があります。システムのプリント回路基板とハードディスクドライブには、静電気に非常に敏感なコンポーネントが含まれています。

▼ サーバーモジュールを挿入する

1. シャーシに挿入するスロットを確認します。
2. (オプション) 必要に応じて、フィルターパネルを取り外します。
レバーを引き出して、フィルターパネルを取り出します。

注 – その他のフィルターパネルは、**未使用**のスロットに入れたままにします。これは、シャーシの電磁波障害 (EMI) に関する FCC 規定に遵守するために必要です。

3. エジェクタが右側になるように、サーバーモジュールを縦にします。
次の図に、Sun Blade 6000 モジュールシステムにサーバーモジュールを挿入する手順を示します。使用するシャーシによっては、図と異なる場合があります。図 1-1 の 1 番を参照してください。

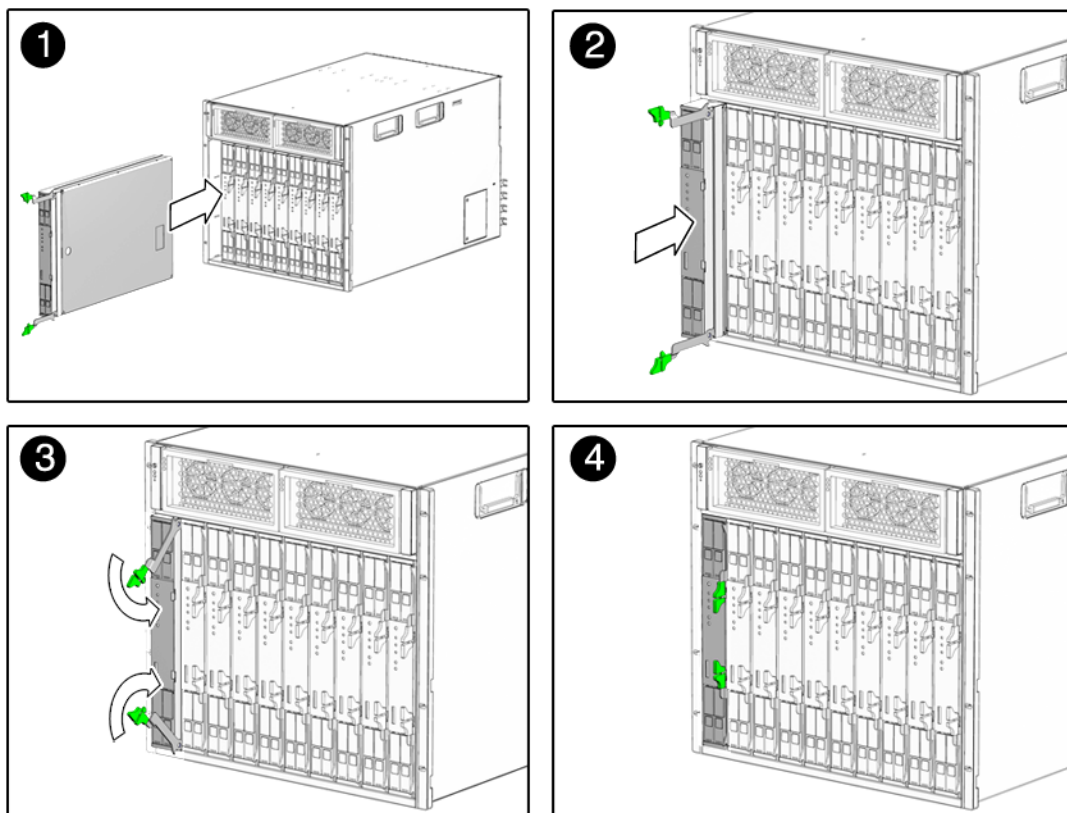


図 1-1 サーバーモジュールをシャーシに挿入する

4. ストップに当たるまで、サーバーモジュールをスロットに押し込みます。
図 1-1 の 2 番を参照してください。
5. 所定の位置に「カチッ」とはまるまで、エジェクタを下方に回します。
サーバーモジュールとシャーシが面一にそろえられ、エジェクタがロックされます。
図 1-1 の 3 ~ 4 番を参照してください。

サーバーモジュールの電源投入と電源切斷

この時点では、サービスプロセッサ (SP) の初期設定を実行できるように、サーバーにスタンバイ電源のみを適用する必要があります。このセクションでは、主電源モードをオンにする手順およびシャットダウンする手順の両方について説明します。

▼ サービスプロセッサの初期設定のためのスタンバイ電源供給

この手順で、初期設定の前にサービスプロセッサ (SP) にスタンバイ電源を適用します。

1. 接地 AC 電源コードを、シャーシ背面にある AC 電源コネクタと接地 AC 電源コンセントに差し込みます。詳細は、使用しているシャーシのドキュメントを参照してください。

スタンバイ電源モードでは、サーバー前面パネルの電源/OK LED が点滅し、SP が機能していることを示します。LED の位置については、[図 1-2](#) を参照してください。

注 – この時点では、スタンバイ電源は、Graphics Redirect and Service Processor (GRASP) ボードと電源ファンにのみ供給されます。

2. 本書の第 2 章の指示に従って、ソフトウェアの初期セットアップの作業に進んでください。

▼ すべてのサーバーコンポーネントの主電源を投入する

1. スタンバイ電源がオンの状態であることを確認します。

スタンバイ電源モードでは、前面パネルの電源/OK LED が点滅します。[図 1-2](#) を参照してください。

2. 前面パネルにある、くぼみのある電源ボタンをボールペンなどの先の尖ったもので押します。

主電源がサーバー全体に供給されると、電源ボタンの上にある電源/OK LED が点灯し続けます。

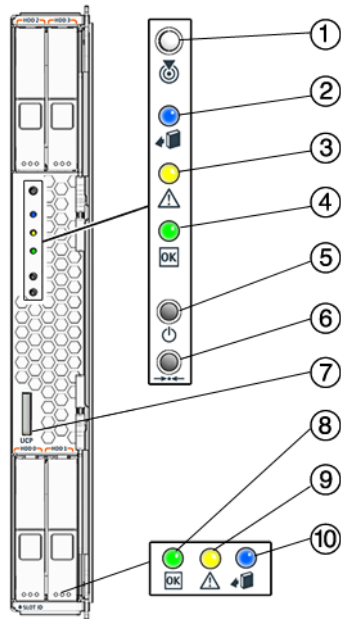


図 1-2 Sun Blade X6220 サーバーモジュールの前面パネル

番号

-
- 1 白の LED - 位置特定
 - 2 青の LED - 取り外し可能
 - 3 黄色の LED - サービスが必要
 - 4 緑の LED - 電源
 - 5 電源オンボタン / スタンバイ
 - 6 Non-Maskable Interrupt (NMI) ボタン (サービス専用)
 - 7 UCP (ユニバーサルコネクタポート) - ドングルケーブル用
 - 8 緑の LED - ディスク OK
 - 9 黄色の LED - ディスクサービスが必要
 - 10 青の LED - ディスクの取り外し可能
-

▼ 主電源モードからシャットダウンする

主電源モードからサーバーの電源をオフにするには、次の2つの方法のいずれかを使用します。

- 適切な順序でのシャットダウン。ボールペンなどの細いもので、前面パネルにある電源ボタンを押して離します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、これで適切な順序での OS シャットダウンが実行されます。ACPI が有効な OS を稼働していないサーバーは、即座にスタンバイ電源モードにシャットダウンされます。
- 緊急シャットダウン。電源ボタンを4秒間押し続けると、主電源がオフになりスタンバイ電源モードになります。

主電源がオフになると、前面パネルにある電源/OK LED が点滅を始め、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。

注 – サーバーの電源を完全に切断するには、シャーシの背面パネルから AC 電源コードを取り外す必要があります。

テスト用ドングルケーブルの使用

シャーシには、ドングルケーブルおよび DB-9/RJ-45 シリアル変換アダプタが付属しています。ドングルを使うと、サーバーの前面にデバイスを直接接続してテストできます。DB-9/RJ-45 シリアル変換アダプタを使って RJ-45 アダプタを DB9 に取り付けることにより、機能が増えます。

▼ テスト用ドングルケーブルを使用する

1. ドングルケーブルをサーバーモジュールの前面パネルにある UCP (ユニバーサルコネクタポート) に挿入します。図 1-3 を参照してください。
2. 必要に応じて、ドングルケーブルを接続します。

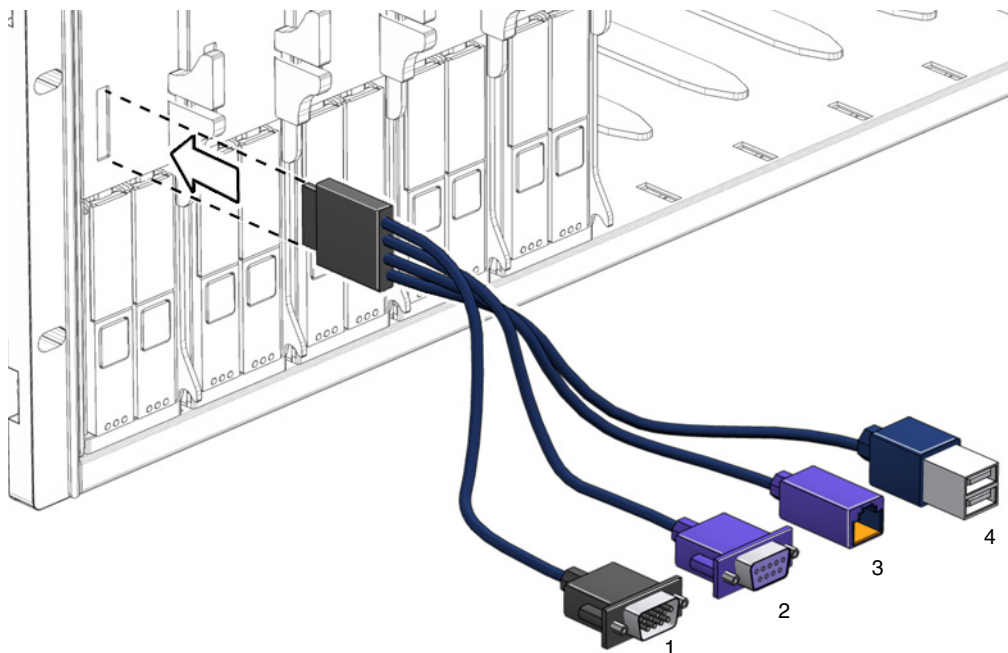


図 1-3 ドングルケーブルの接続

番号

	コネクタ	状態
1	DB9 シリアルコンソールからサーバーモジュールの ILOM	使用中
2	VGA ビデオコネクタ	使用中
3	10/100M ビット Ethernet	サポートされていません。シャーシ上の Ethernet ポートを使用してください。
4	デュアル USB コネクタ	使用中

サーバーソフトウェアのセットアップ

この章では、Sun™ Integrated Lights Out Manager ソフトウェアをの設定およびアクセス方法、プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアのセットアップ方法を説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- 「Integrated Lights Out Manager」 (9 ページ)
 - 「サービスプロセッサについて」 (10 ページ)
 - 「事前設定された管理者アカウントの概要」 (10 ページ)
 - 「接続の概要」 (11 ページ)
 - 「サーバーモジュール ILOM への接続」 (11 ページ)
 - 「ILOM IP アドレスの設定」 (20 ページ)
- 「プラットフォームオペレーティング システムおよびドライバソフトウェア のセットアップ」 (27 ページ)

Integrated Lights Out Manager

Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、シャーシおよびサーバーモジュールにインストールされたコンポーネントを監視および管理する内蔵システム管理ソフトウェアです。ILOM により、ネットワーク情報の設定、ハードウェア設定の表示と編集、重要なシステム情報の監視、およびユーザーアカウントの管理を行います。

ILOM には、Web ブラウザ、コマンドラインインタフェース (CLI)、SNMP インタフェース、IPMI インタフェースなど、さまざまなインタフェースを介してアクセスできます。

注 – この章では、コマンドラインインタフェースと Web ブラウザを使って ILOM にアクセスする方法を説明します。その他の方法は、ILOM 管理ガイドを参照してください。

サービスプロセッサについて

サービスプロセッサは、システム内の他のハードウェアに依存せずに動作するボードです。独自の IP アドレスと MAC アドレスを持ち、他のシステムハードウェアの状態とは無関係に動作します。サーバーモジュールで使用すると、サーバーの状態（フル動作、電源オフ、その中間のいずれか）に依存せずに動作します。

シャーシ、およびシャーシに設置されたサーバーモジュールごとに、固有のサービスプロセッサが使用されます。

本書では、次の用語の使い方に注意してください。

- 「シャーシ監視モジュール (CMM)」とは、シャーシ上のハードウェアモジュールを指すものとします。
- 「CMM ILOM」とは、CMM 上の ILOM ソフトウェアを指すものとします。
- 「サーバーモジュールサービスプロセッサ (SP)」とは、サーバーモジュールの SP ハードウェアを指すものとします。
- 「サーバーモジュール ILOM」とは、サーバーモジュール SP 上の ILOM ソフトウェアのことです。

サーバーモジュールによって、サービスプロセッサは異なります。

事前設定された管理者アカウントの概要

サーバーモジュールは、出荷時に次の管理者アカウントが事前設定されています。

ユーザー名：`root`

パスワード：`changeme`

事前設定の管理者アカウント (`root`) は、削除または変更できません。ただし、パスワードは変更できます。このアカウントには、すべてのサービスプロセッサの機能とコマンドを使用できる管理者権限（読み取りおよび書き込みアクセス）が組み込まれています。

注 – CMM ILOM は、同じ管理者アカウントが事前設定された状態で出荷されます。ユーザー名は `root`、デフォルトのパスワードは `changeme` です。

接続の概要

図 2-1 に、サーバーモジュール ILOM への接続方法を示します。

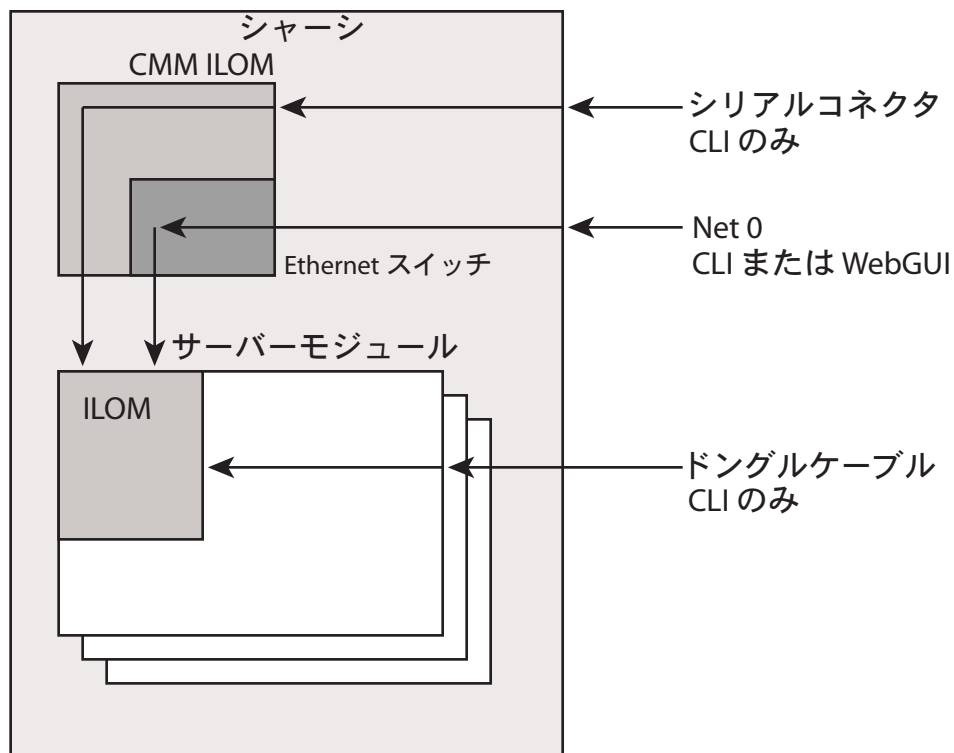


図 2-1 ILOM への接続オプション

サーバーモジュール ILOM への接続

サーバーモジュールのインストールを続行するには、ILOM に接続できることを確認する必要があります。

サーバーモジュール ILOM には、次のいずれかの方法で接続できます。詳細は、各セクションで説明します。

注 – オプション 1 または オプション 2 では、IP アドレスなしで ILOM に接続できます。これは、ILOM のコマンドラインインタフェース (CLI) のみで行う方法です。オプション 3 には、ILOM の IP アドレスが必要です。ただし、CLI および WebGUI のどちらでも行えます。ほとんどのユーザーは ILOM の IP アドレスを設定し、オプション 3 を使って接続します。

ILOM の IP アドレスの設定方法は、「[ILOM IP アドレスの設定](#)」(20 ページ) で説明します。

- オプション 1：シャーシ上のシリアルコネクタにより CMM ILOM に接続します。次に CMM ILOM で、サーバーモジュール ILOM に移動します。「[オプション 1：シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続](#)」(12 ページ) を参照してください。
- オプション 2：ドングルケーブルを使用して、サーバーモジュール ILOM に直接シリアル接続を確立します。「[オプション 2：ドングルケーブルによる ILOM への接続](#)」(16 ページ) を参照してください。
- オプション 3：Ethernet を介して接続します。この場合は CLI と WebGUI の両方を使用できます。「[オプション 3：Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」(18 ページ) を参照してください。

次に、これらの方法を詳しく説明します。

オプション 1：シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続

シャーシ上のシリアルコネクタは、CMM ILOM に接続しています。CMM ILOM から、サーバーモジュールの ILOM に接続するためのコマンドが送信されます。

シャーシのシリアルコネクタを使った接続方法

端末または PC で稼働しているターミナルエミュレータソフトウェアをシャーシの RJ-45 シリアルポートに接続すれば、いつでも CMM ILOM にアクセスできます。CMM ILOM のコマンドラインインタフェース (CLI) を使うと、サーバーモジュール ILOM に接続できます。

正常に接続するには、サーバーモジュールがシャーシに設置されている必要があります。

1. 使用している端末、ラップトップ、またはターミナルサーバーが稼働していることを確認します。

2. 端末デバイスまたはターミナルエミュレータを次のように設定します。
 - 8N1：データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー (デフォルト、57600 までの標準レート of のいずれにも設定可)
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
3. シャーシのシリアルポートから端末デバイスにシリアルケーブルを接続します。
シリアルポートの場所は、シャーシの説明書で確認してください。

注 - シリアルポートでは次のようにピンを割り当てる必要があります。このピン配列は、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) または Remote System Control (RSC) 用のシリアルケーブルコネクタと同じです。表 2-1 を参照してください。

表 2-1 シリアル管理ポートのピン配列

ピン番号	信号名
1	送信要求 (RTS)
2	データ端末レディ (DTR)
3	データ送信 (TXD)
4	アース
5	アース
6	データ受信 (RXD)
7	データキャリア検出 (DCD)
8	送信許可 (CTS)

4. 端末デバイスの **Enter** キーを押します。
端末デバイスと CMM ILOM の間の接続が確立します。

注 - 電源を投入する前または起動シーケンス中に端末やエミュレータをシリアルポートに接続すると、ブートアップメッセージが表示されます。

システムがブートすると、CMM ILOM によって、次のログインプロンプトが表示されます。

```
SUNCMMnnnnnnnnnnnnnnnnnn login :
```

プロンプトの最初の文字列はデフォルトのホスト名で、プレフィックス「SUNCMM」と CMM ILOM の MAC アドレスからなります。各サービスプロセッサには固有の MAC アドレスが割り当てられています。

5. CLI にログインするには、次の手順に従ってください。

a. デフォルトのユーザー名 (**root**) を入力します。

b. デフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

正常にログインすると、CMM ILOM にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

これで CMM ILOM CLI に接続されました。

6. 次のコマンドを入力してサーバーモジュール ILOM に移動します。

```
-> cd /CH/BLn/SP/cli
```

n には、サーバーモジュールの番号 0 ~ 9 に対応した数字 (0 ~ 9) を入力します。

7. **start** コマンドを入力します。

プロンプトが表示されます。

8. 継続するには「**y**」、キャンセルするには「**n**」と入力します。

「**y**」と入力した場合は、サーバーモジュール ILOM のパスワードを入力するプロンプトが表示されます。

注 - CMM ILOM から、/CH/BL*n*/SP/cli (*n* はサーバーモジュールの番号) の下の Target の `user` のユーザー名 を使用してサーバーモジュール ILOM にログオンします。

9. プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

デフォルトのパスワードは **changeme** です。

サーバーモジュール ILOM のプロンプトが表示されます。

10. 終了するには、「**exit**」と入力します。

サーバーモジュール ILOM が終了し、CMM CLI のプロンプトが表示されます。

次に、ログイン画面の例を示します。

```
-> cd /CH/BL2/SP/cli
/CH/BL2/SP/cli

-> start
Are you sure you want to start /CH/BL2/SP/cli (y/n) ? y
Password:          サーバーモジュールILOM へのパスワードを入力します。

Sun (TM) Integrated Lights Out Manager

Version 1.1.1

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Warning:password is set to factory default.

-> exit          このコマンドを実行すると、サーバーモジュールILOM を終了
                 してCMM ILOM に戻ります。
Connection to 10.6.153.33 closed.
```

オプション 2：ドングルケーブルによる ILOM への接続

ドングルケーブルを使用すると、端末を直接 ILOM に接続できます。図 2-2 に、ドングルケーブルのサーバーモジュールへの接続方法、表 2-2 に、ドングルケーブルのピン配列を示します。

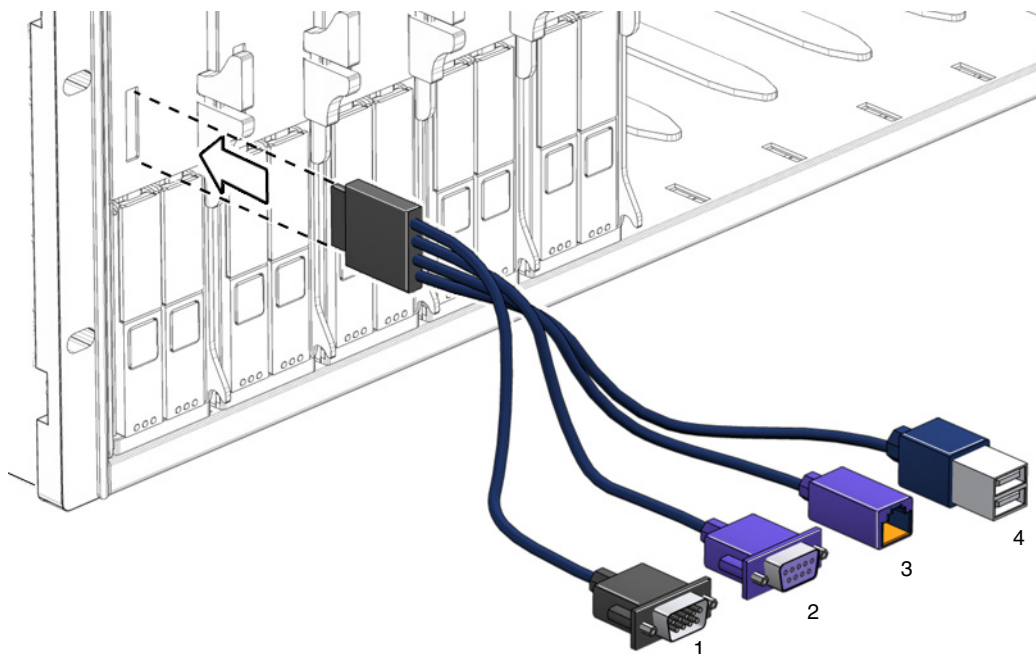


図 2-2 ドングルケーブル

番号

	コネクタ	状態
1	DB9 シリアルコンソールからサーバーモジュール ILOM	使用中
2	VGA ビデオコネクタ	使用中
3	10/100M ビット Ethernet	サポートされていません。シャーシ上の Ethernet ポートを使用してください。
4	デュアル USB コネクタ	使用中

次表に、DB9 ドングルのピン配列を示します。

表 2-2 DB9 ポートのピン配列

ピン番号	信号名	状態
6	COM DSR	サポートなし
2	COM SIN	
7	COM RTS	
3	COM SOUT	
8	COM CTS	
4	COM DTR	
1	COM DCD	
9	COM RI	サポートなし

ドングルケーブルを使った ILOM への接続方法

1. ドングルケーブルをサーバーモジュールに接続します。
2. 端末またはターミナルエミュレータをドングルケーブルの DB9 コネクタ (図中 2) に接続します。

ヒント – シャーシには、ドングルケーブルおよび DB-9/RJ-45 シリアル変換アダプタが付属しています。

ILOM のログインプロンプトが表示されます。

3. プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名は `root`、デフォルトのパスワードは `changeme` です。
サーバーモジュール ILOM のプロンプトが表示されます。
4. ILOM を終了するには、次のように入力します。
`-> exit`

オプション 3：Ethernet ポートによる ILOM への接続

シャーシの Ethernet ポートを使用すると、最も堅牢性の高い ILOM 接続を確立できます。この方法では、CLI と WebGUI の両方を使用できます。

ILOM には、RJ-45 コネクタ用 NET MGT 0 Ethernet ポートまたは対応する Network Express Module (NEM) ポートのどちらかを使用して接続できます。

Ethernet を使用して接続するには、ILOM の IP アドレスが必要です。

注 – ILOM の IP アドレスを設定する方法は、「[ILOM IP アドレスの設定](#) (20 ページ) を参照してください。

CLI へのログインとログアウト

ILOM では、Ethernet を介して CLI に SSH からアクセスできます。

1. SSH クライアントを起動します。
2. ILOM にログインするには、次のように入力します。
`$ ssh root@ipaddress`
3. プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

注 – デフォルトのユーザー名は `root`、デフォルトのパスワードは `changeme` です。

次に例を示します。

```
$ ssh root@192.168.25.25
root@192.168.25.25's password:
Sun Integrated Lights Out Manager
Version 1.0
Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Warning: password is set to factory default.
->
```

4. ログアウトするには、「`exit`」と入力します。

WebGUI へのログインとログアウト

1. WebGUI にログインするには、Web ブラウザに ILOM の IP アドレスを入力します。
ログイン画面が表示されます。

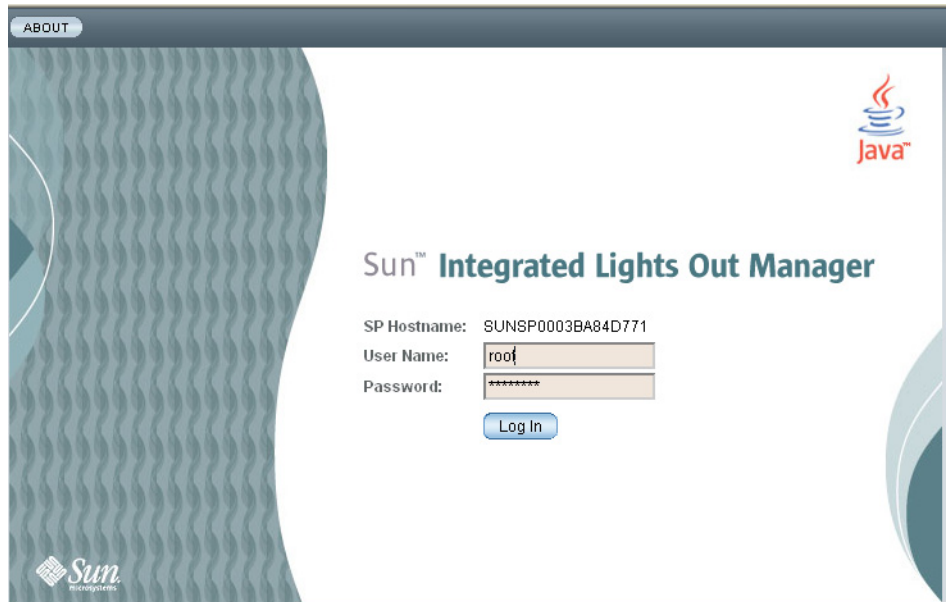


図 2-3 WebGUI のログイン画面

2. ユーザー名とパスワードを入力します。
WebGUI に最初にアクセスするとき、次のデフォルトのユーザー名とパスワードを入力するプロンプトが表示されます。
 - デフォルトのユーザー名：root
 - デフォルトのパスワード：changemeデフォルトのユーザー名とパスワードには、小文字を使ってください。
3. 「Log In (ログイン)」をクリックします。
WebGUI が表示されます。
4. WebGUI からログアウトするには、WebGUI の右上にある「Log Out (ログアウト)」ボタンをクリックします。
ログアウト画面が表示されます。



注意 – WebGUI からログアウトするときに Web ブラウザのログアウトボタンは使用しないでください。

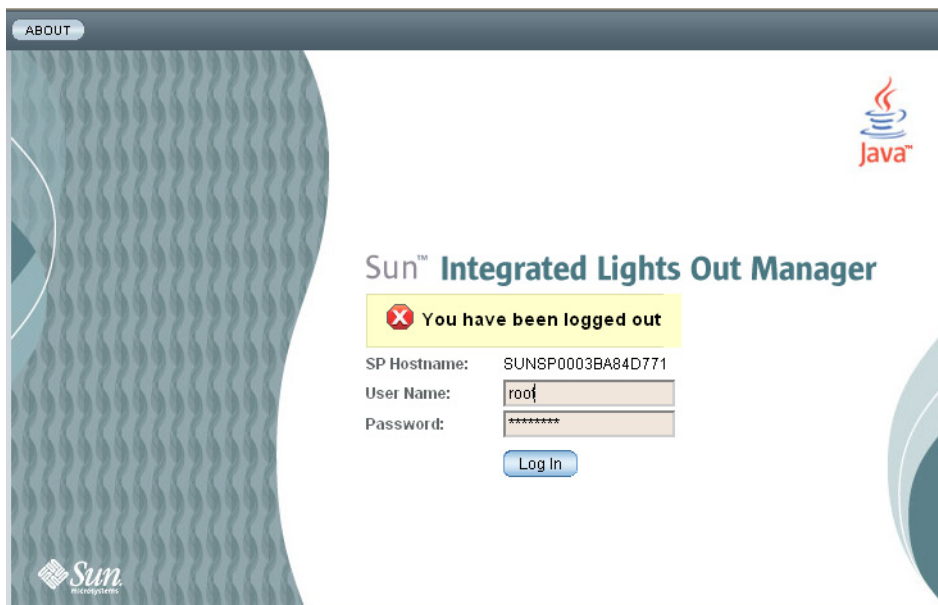


図 2-4 WebGUI のログアウト画面

ILOM IP アドレスの設定

このセクションでは、ILOM の IP アドレスを表示して設定する方法を説明します。次の項目について説明します。

- 「ILOM の IP アドレスの表示」 (21 ページ)
- 「BIOS セットアップユーティリティによる ILOM IP アドレスの設定」 (21 ページ)
- 「DHCP による ILOM IP アドレスの設定」 (23 ページ)
- 「CLI による ILOM IP アドレスの設定」 (24 ページ)

ILOM の IP アドレスの表示

1. 「サーバーモジュール ILOM への接続」(11 ページ) のいずれかの方法により ILOM CLI にログオンします。

Ethernet の SSH 接続を使用するには、IP アドレスが必要です。

2. `root` ディレクトリから次のコマンドを入力します。

- a. IP アドレスに関連するすべての情報を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/network
```

- b. IP アドレスだけを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/network/ipaddress
```

BIOS セットアップユーティリティによる ILOM IP アドレスの設定

BIOS セットアップユーティリティを使用して、ILOM の IP アドレスを設定できます。IP アドレスの設定は、手動、または DHCP を使用して行うことができます。

1. 次の項目を確認します。

- DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるよう設定されている。
- DHCP サーバーが対応する NEM ポートまたは RJ-45 NET MGT Ethernet ポートに接続されている。

2. BIOS セットアップユーティリティを起動します。

- a. システムをブートします。

- b. ブートメッセージに注意してください。F2 キーを押して BIOS セットアップを開始する行が表示されます。

- c. そのメッセージが表示されたら F2 キーを押します。

メッセージの後に画面が変わり、BIOS セットアップユーティリティが表示されます。

3. 「Advanced (詳細) タブを選択します。

「Advanced (詳細) ページが表示されます。

4. リストの「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成) をハイライトし、Enter キーを押します。

「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成) ページが表示されます。

5. 「LAN Configuration (LAN 構成)」をハイライトし、Enter キーを押します。
「LAN Configuration (LAN 構成)」ページが表示されます。
6. 「LAN Configuration (LAN 構成)」ページで、「IP Assignment (IP 割り当て)」の下の「DHCP」または「Static (静的)」を選択します。
「Static (静的)」を選択した場合は、ページ末尾で IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力します。
7. 「Commit (コミット)」を選択して変更を保存します。
BIOS ユーティリティにより自動的にアドレスフィールドが更新されます。
 - 「Static (静的)」を選択した場合は、ここで作業は終了です。
 - 「DHCP」を選択した場合は、DHCP サーバーにより IP アドレスがサーバーモジュール ILOM に割り当てられます。ステップ 8 に進みます。

注意 – このページでの変更を保存するには、「Commit (コミット)」を選択する必要があります。F10 キーを押しても変更は保存されません。

8. DHCP がサーバーモジュール ILOM に割り当てた IP アドレスを確認するには、次のいずれかを実行します。
 - オプション 1 またはオプション 2 を使用して ILOM にログオンし、`show /SP/network` コマンドを入力します。
 - DHCP ログファイルを確認します。

注 – ログファイルは、オペレーティングシステムや DHCP サーバーにより、保存される場所が異なります。DHCP システム管理者に問い合わせ、ログファイルへの正しいパスを入手してください。

通常、DHCP ログファイルのエントリは、次のようにコマンドで区切られたフィールドを持つ個別の行です。

ID, Date, Time, Description, IP Address, Host Name, MAC Address

正しい DHCP ファイルエントリの MAC アドレス (7 番目) フィールドで ILOM の MAC アドレスを探し、IP アドレス (5 番目) フィールドの対応する値を記録します。このアドレスを使って、WebGUI およびリモートコンソールにアクセスする必要があります。

DHCP による ILOM IP アドレスの設定

この手順では、DHCP を使用して ILOM に IP アドレスを割り当てます。

1. DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるよう設定されていることを確認します。
2. 次のいずれかの場所からサーバーモジュール ILOM の MAC アドレスを取得します。
MAC アドレスは、12 桁の 16 進数文字列で、`xx:xx:xx:xx:xx:xx` の形式で表示されます。「x」は、各 1 個の 16 進数文字 (0 ~ 9、A ~ F、a ~ f) です。参照用に、このアドレスを記録します。
 - サーバーモジュール ILOM のシリアルポートに端末デバイスを接続し、ILOM にログインして、コマンド `show /SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。「[オプション 2：ドングルケーブルによる ILOM への接続](#)」(16 ページ) を参照してください。
 - CMM ILOM のシリアルポートに端末デバイスを接続し、CMM にログインして、コマンド `show /CH/BLn/SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。「[オプション 3：Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」(18 ページ) を参照してください。
 - GRASP ボードに貼られているラベルに MAC アドレスが記載されています。このラベルを確認するには、サーバーモジュールをスロットから引き出す必要があります。
 - サーバーに付属のお客様情報シートに MAC アドレスが記載されています。
 - システムの BIOS セットアップ画面で MAC アドレスを確認します。そのためには、「Advanced (詳細)」、「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」、「Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)」、「MAC アドレス (MAC アドレス)」の順に選択します。
3. Ethernet ケーブルをサーバーモジュールに対応する NEM ポートに接続します。
NEM ポートの場所は、シャーシの説明書で確認してください。

注 – サーバーモジュール ILOM に IP アドレスを割り当てる前に、NEM ポートを使って DHCP をサーバーモジュールに接続しておく必要があります。

DHCP が RJ-45 NET MGT Ethernet ポートにだけ接続されている場合は、サーバーモジュール ILOM に自動的にアドレスを割り当てることはできません。

4. サーバーモジュール ILOM をリセットします。
 - a. 「[オプション 1：シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続](#) (12 ページ) または 「[オプション 3：Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」 (18 ページ) の説明に従ってサーバーモジュール ILOM にログインします。
 - b. `reset` コマンドを入力します。

```
-> reset /SP
```

DHCP の再起動時に、ILOM に IP アドレスが自動的に割り当てられます。
5. DHCP がサーバーモジュール ILOM に割り当てた IP アドレスを確認します。
「[BIOS セットアップユーティリティによる ILOM IP アドレスの設定](#)」 (21 ページ) の [ステップ 8](#) を参照してください。

CLI による ILOM IP アドレスの設定

この方法では、CLI を使用して ILOM IP アドレスを手動で設定します。

1. サーバーモジュール ILOM に、次のいずれかの方法で接続します。
 - 「[オプション 1：シャーシ上のシリアルコネクタによる CMM ILOM への接続](#)」 (12 ページ) の説明に従って、シャーシのシリアルコネクタを使用してサーバーモジュール ILOM に接続する。
 - 「[オプション 2：ドングルケーブルによる ILOM への接続](#)」 (16 ページ) の説明に従って、ドングルケーブルを使用してサーバーモジュール ILOM に接続する。
 - 「[オプション 3：Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」 (18 ページ) の説明に従って、SSH を使用してサーバーモジュール ILOM に接続する。
2. (省略可) IP アドレスを表示するには、`show /SP/network/ipaddress` を入力します。

```
-> show /SP/network/ipaddress

/SP/network
  Targets:

  Properties:
    ipaddress = 10.6.153.148

  Commands:
    show

->
```


3. 次のコマンドを入力して /SP/network に移動します。

```
cd /SP/network
```

4. 次のコマンドを入力します。

■ 静的 Ethernet 接続を設定する場合

```
set pendingipdiscovery=static
set pendingipaddress=xxx.xxx.xx.xx
set pendingipnetmask=yyy.yyy.yyy.y
set pendingipgateway=zzz.zzz.zz.zzz
set commitpending=true
```

xxx.xxx.xx.xx、yyy.yyy.yyy.y および zzz.zzz.zz.zzz は、それぞれ ILOM およびネットワーク設定で使用される IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイです。これらのアドレスは、システム管理者にお問い合わせください。

■ 動的 Ethernet 接続を設定する場合

```
set pendingipdiscovery=dhcp
set commitpending=true
```

5. ILOM を終了するには、「exit」と入力します。

CMM ILOM を介してサーバーモジュールに接続している場合は、CMM ILOMに戻ります。

SSH を使用して ILOM に接続している場合は、異なる IP アドレスでログインしているため、自動的に切断されます。

次の例では、静的設定を表示し、それを動的になるように設定し、新しい設定を表示する一般的なセッションを示します。

```
-> cd /SP/network

-> show

/SP/network
Targets:

Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  ipaddress = 10.6.42.42
  ipdiscovery = static
  ipgateway = 10.6.42.1
  ipnetmask = 255.255.255.0
  macaddress = 00:14:4F:3A:26:74
  pendingipaddress = 10.6.42.42
  pendingipdiscovery = static
  pendingipgateway = 10.6.42.1
  pendingipnetmask = 255.255.255.0

Commands:
  cd
  set
  show
```

```
-> set pendingipdiscovery=dhcp
Set 'pendingipdiscovery' to 'dhcp'
```

```
-> set commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

SSH を使用してログインした場合は、この時点で切断されます。

```
-> show

/SP/network
Targets:

Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  ipaddress = 10.6.42.191
  ipdiscovery = dhcp
  ipgateway = 10.6.42.1
  ipnetmask = 255.255.255.0
  macaddress = 00:14:4F:3A:26:74
  pendingipaddress = 10.6.42.191
  pendingipdiscovery = dhcp
  pendingipgateway = 10.6.42.1
  pendingipnetmask = 255.255.255.0

Commands:
  cd
  set
  show
```

プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ

サーバーモジュール ILOM のネットワーク設定を行ったあと、プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムを設定したり、サポートされている Linux または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバをインストールできます。

- プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムを使用するには、「[プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定](#)」(29 ページ) を参照してください。
- サポートされている Linux や Solaris のオペレーティングシステムと、必要なドライバのインストールについては、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。
- サポートされている Windows オペレーティングシステムと必要なドライバのインストールについては、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールのオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。
- サーバーに固有の OS に関するその他の注意点については、『Sun Blade X6220 サーバーモジュールご使用にあたって』も参照してください。

プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定

この章では、サーバーにプリインストールされている Solaris™ 10 オペレーティングシステム (OS) の設定手順説明します。出荷時にインストールされているバージョンは Solaris 10 11/06 以降です。

注 – SPARC® システムとは異なり、サーバーの電源を入れてもモニターにプリインストールされた Solaris 10 イメージは表示されません。BIOS の電源投入時の自己診断テスト (POST) とその他のート情報が出力されます。

出荷時のサーバーのコンソールはシリアルポートにリダイレクトされています。

出力を VGA (ビデオポート) にすることができます。詳細は、「[コンソールの出力のビデオポートへのリダイレクト \(省略可\)](#)」(35 ページ) を参照してください。

開始前のご注意

プリインストールされた OS の設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- 「[サーバーモジュール ILOM への接続](#)」(11 ページ) の手順に従って、サーバーの ILOM の初期設定を行い、サーバーのネットワーク設定を確認します。
- 「[インストールのためのワークシート](#)」(30 ページ) に示す設定に必要な情報を収集します。デフォルトはアスタリスク (*) で示しています。

ヒント – サーバーモジュール、PCI Express Module、および SP MAC のアドレスを確認するには、システムボックスに付属のお客様情報シート、またはその各ラベルに印刷されているサーバー、PCI EM、SP MAC アドレスを参照してください。

インストールのためのワークシート

表 3-1 のワークシートを使用して、プリインストールされた Solaris 10 OS の設定に必要な情報を収集します。収集するのは使用しているシステムのアプリケーションに該当する情報だけで十分です。

表 3-1 インストールのためのワークシート

インストールのための情報	説明または例	回答 (* はデフォルト)
言語	Solaris ソフトウェアに使用できる言語をリストから選択します。	英語*
地域	サポート対象の地域のリストから自分の地域を選択します。	
端末	使用可能な端末タイプのリストから、使用している端末のタイプを選択します。	
ネットワーク接続	システムはネットワークに接続されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークに接続されている ネットワークに接続されていない*
DHCP	ネットワークインタフェースの設定に DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) 用できますか？	<ul style="list-style-type: none"> はい いいえ*
DHCP を使用していない場合、ネットワークアドレスを入力します。	IP アドレス	DHCP を使用していない場合、システムに IP アドレスを割り当てます。 例：129.200.9.1
	サブネット	DHCP を使用していない場合、システムはサブネットの一部ですか？ システムがサブネットの一部である場合、サブネットのネットマスクを入力します。 例：255.255.0.0
	IPv6	このマシンで IPv6 を有効にしますか？
ホスト名	システムに指定したホスト名	<ul style="list-style-type: none"> はい いいえ*
Kerberos	このマシンで Kerberos セキュリティを設定しますか？ 設定する場合、次の情報を収集してください。 デフォルト Realm： 管理サーバー： 第 1 KDC： (省略可) その他の KDC：	<ul style="list-style-type: none"> はい いいえ*

表 3-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのための情報	説明または例	回答 (* はデフォルト)
ネームサービス	ネームサービス	該当する場合は、このシステムで使うネームサービスを 入力します。
		<ul style="list-style-type: none"> • NIS+ • NIS • DNS • LDAP • なし*
		<hr/>
		ドメインネーム システムが含まれているドメインの名前を入力します。
		<hr/>
NIS+ と NIS	自分でネームサーバーを指定しますか、またはインストールプログラムによって自動的に指定しますか?	<ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定 • 自動的に指定*
		<hr/>
DNS	DNS サーバーの IP アドレスを入力します。少なくとも 1 個は入力する必要があります (最高 3 個)。	
		DNS の問い合わせ時に検索するドメインのリストも入力できます。
		検索ドメイン:
		検索ドメイン:
		検索ドメイン:
		<hr/>
LDAP	LDAP プロファイルについて次の情報を入力します。	
		プロファイル名:
		プロファイルサーバー:
		LDAP プロファイルにプロキシ認証レベルを指定する場合は、次の情報を収集します。
		プロキシバインド識別名:
		プロキシバインドパスワード:

表 3-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのための情報	説明または例	回答 (* はデフォルト)
デフォルトルート	<p>自分でデフォルトルート IP アドレスを指定しますか、または Solaris インストールプログラムによって自動的に指定しますか？</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間でトラフィックを転送するブリッジの役目を果たします。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する固有の数字です。</p> <p>次のようなオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分で IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して、<code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムのリブート時に、指定した IP アドレスがデフォルトのルートになります。 • Solaris インストールプログラムを使用して、IP アドレスを検出できます。ただしその場合は、システムがルータのあるサブネット上にあり、そのルータが ICMP ルータディスカバリプロトコルを使用して公開されている必要があります。コマンドラインインタフェースを使用する場合、システムのブート時に IP アドレスが自動的に検出されます。 • この時点でルータを使用していないか、ソフトウェアによって IP アドレスを検出しない場合には、「なし」を選択することもできます。ソフトウェアは、リブート時に IP アドレスを自動的に検出します。 	<ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定 • IP アドレスを検出 • なし*
時差	デフォルトの時差を指定する方法を選択します。	<ul style="list-style-type: none"> • 地域* • GM からのオフセット • 時差ファイル
ルートパスワード	システム用のルートパスワードを選択します。	

プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定

注 – この手順を実行する前に、サービスプロセッサをセットアップする必要があります。準備が完了していない場合は、「[サーバーモジュール ILOM への接続](#)」(11 ページ) を参照してください。

設定時は、「[インストールのためのワークシート](#)」(30 ページ) で収集した情報を使用します。

サーバーモジュール ILOM を設定したあと、サービスプロセッサによりシステムコンソールに接続して、プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) 定できます。

▼ サービスプロセッサによるシステムコンソールへの接続方法

「[サーバーモジュール ILOM への接続](#)」(11 ページ) の説明に従って、シリアル端末または Ethernet を使用してサービスプロセッサに接続することができます。

シリアル端末を使用してサービスプロセッサに接続する場合は、次のいずれかの方法を使用します。

- シリアルポート出力をキャプチャするには、クライアントで動作する Solaris OS で次のように入力します。
\$tip -9600 /dev/ttya
 - クライアントで動作する Windows で、Hyperterminal などのプログラムを起動します。
 - クライアントで動作する Linux で、Minicom などのプログラムを起動します。Minicom は Linux ディストリビューションに含まれている、テキストベースのシリアル通信プログラムです。詳細は、Linux ディストリビューションに含まれるマニュアルページを参照してください。
1. 「[サーバーモジュール ILOM への接続](#)」(11 ページ) のいずれかの方法により、サービスプロセッサに接続してログインします。
サーバーモジュール ILOM のプロンプトが表示されます。
->

2. サービスプロセッサの通信プロパティがデフォルトに設定されていることを確認します。次に例を示します。

```
-> show /SP/serial/host
/SP/serial/host
Targets:

Properties:
  commitpending = (Cannot show property)
  pendingspeed = 9600
  speed = 9600

Commands:
  cd
  show
```

3. speed (速度) 9600 以外の場合は、次のコマンドにより変更します。

```
-> set /SP/serial/host pendingspeed=9600 commitpending=true
```

4. 次のように入力して、シリアルコンソールモードを開始します。

```
-> start /SP/console
```

管理者権限のあるアカウントだけが、SP シリアルポートの設定を実行できます。

5. プロンプトが表示されたら、「y」と入力します。

```
Are you sure you want to start /SP/console (y/n) ? y
```

6. 前面パネルにあるくぼんだ電源ボタンをボールペンなど先の尖ったもので押して、サーバーの電源を入れます。

OS のブート時に、POST メッセージが画面に表示されます。

7. Solaris 10 のプリインストール画面に表示される指示に従います。

8. 指示に従ってシステムとネットワークの情報を入力します。このとき、「[インストールのためのワークシート](#)」(30 ページ) で収集した情報を使用します。

表示される画面は、ネットワーク情報をサーバーに割り当てる方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によってなります。

システム構成情報を入力すると、サーバーのブート処理が完了し、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

▼ コンソールの出力のビデオポートへのリダイレクト (省略可)

サーバーモジュールのコンソールは自動的にシリアルポートに送られます。X86 または X64 システムの Solaris OS には、オープンソースの GRUB ブートローダがデフォルトで付属しています。ブートローダは、システムの電源を入れてから最初に行われるソフトウェアプログラムです。

シャーシの SER MGT ポートまたは dongle のシリアルポートにケーブルを取り付け、ホストサーバーのシリアルポートとクライアントシステムのビデオポートを接続します。

GRUB メニューから、次に示すように、インストールプロセスを VGA 接続 (ビデオポート) に表示するオプションを選択できます。

```
*****
* Solaris 10 11/06 s10x_u2wos_09a X86                                     *
* Solaris failsafe                                                    *
* Solaris 10 11/06 s10x_u2wos_09a X86 (VGA)                           *
*                                                                       *
*                                                                       *
*                                                                       *
*                                                                       *
*                                                                       *
*                                                                       *
```

たとえば、ビデオポートへの出力を表示するには、「Solaris 10 11/06 s10x_u2wos_09a X86 (VGA)」オプションを選択します。

Solaris 10 ユーザーマニュアル

次の Web サイトで、Solaris 10 OS の各種ユーザーマニュアルを参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

Solaris 10 OS のトレーニング

Sun は、お客様のスケジュールと学習スタイルに応じて柔軟なトレーニングオプションを提供しています。講師によるクラス、Web ベースのオンラインのクラス、CD-ROM のクラス、ライブ仮想クラスなどのオプションがあります。Solaris 10 のトレーニングおよび認定オプションの一覧については、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/training/catalog/solaris10.html>

Solaris インストールプログラムの使用

Solaris インストールプログラムの使用方法が記載されたドキュメントを、次の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/>

SPARC ベースではなく、x86 ベースシステムの手順に従ってください。詳細は、インストールしたバージョンの Solaris 10 オペレーティングシステムの「Solaris 10 Release and Installation Collection (Solaris 10 リリースおよびインストールコレクション)」を参照してください。次のサイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

インストール中の注意

プリインストールされた Solaris OS の設定が完了すると、Solaris インストールプログラムでシステムがリブートされ、ログイン画面が表示されます。システムにプリロードされている次のソフトウェアを示すメッセージが表示されます。

- Sun Java™ Enterprise System (Java ES)
- Sun™ Studio 11

Sun Java Enterprise System

Sun Java Enterprise System (Java ES) は、ネットワークまたはインターネット環境を通じて配布される、企業規模のアプリケーションをサポートするために必要なサービスを構築する、一連のソフトウェアコンポーネントです。

Sun Studio 11

Sun Studio 11 には、SPARC および x86/x64 プラットフォームの Solaris OS 向けの、高性能で最適化された C、C++、および Fortran コンパイラが搭載されています。また、アプリケーションパフォーマンス分析やソース言語が異なるアプリケーションのデバッグを行うためのコマンドラインツールや、NetBeans ベースの Integrated Development Environment (IDE) も搭載されています。これらのツールにより、gcc、Visual C++、C99、OpenMP、および Fortran 2003 との互換性があるマルチプラットフォームに対応できます。

Solaris オペレーティングシステムの再インストール

Solaris を再インストールしたり別のバージョンの Solaris をインストールするには、DVD や Preboot Execution Environment (PXE) ネットワーク経由など、複数の方法があります。

詳細な手順については、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』を参照してください。

ソフトウェアのダウンロード

ソフトウェアを再インストールする必要がある場合は、次のサイトからダウンロードできます。

- Solaris 10 オペレーティングシステムをダウンロードする場合
<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>
- パッチをダウンロードする場合
<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=home>

索引

C

CLI

- SSH ログアウト 18
- SSH ログイン 18

CMM ILOM 10

D

DB-9/RJ-45 シリアルアダプタ 6

DHCP 23

E

Ethernet コネクタ 7,16

G

GRUB 35

I

ILOM

CLI

- SSH ログアウト 18
- SSH ログイン 18

概要 9

シリアル接続 12

IP アドレス

- BIOS セットアップユーティリティによる設定 21

DHCP による設定 23

M

MAC アドレス 13, 23

SP 29

サーバーモジュール 29

O

OS のインストール、参照先 27

P

PCI EM MAC アドレス 29

R

root パスワード 18

S

Solaris 10 オペレーティングシステム

ダウンロード 37

SSH

CLI ログアウト 18

CLI ログイン 18

U

USB デバイスへの接続 7,16

か

概要、設置 1

緊急シャットダウン 6

さ

- サーバーモジュール
 - ILOM 10
 - SP IP アドレスによる接続 33
 - 前面パネル 5
 - 挿入 2
 - ビデオへのコンソールのリダイレクト 35
- サーバーモジュール ILOM
 - Ethernet ポートによる接続 18
 - シャーシのシリアルコネクタを使った接続 12
 - ドングルケーブルによる接続 16
- サーバーモジュールの定義 1
- サービスプロセッサ
 - MAC アドレス 29
- 事前設定された ILOM 管理アカウント 10
- シャーシの定義 1
- シリアルコネクタ 7
- スタンバイ電源、適用 4
- 製品アップデート vii
- 設置の概要 1

た

- 適切な順序でのシャットダウン 6
- デフォルトの root パスワード 18
- 電源
 - スタンバイ電源の投入 4
 - 電源切断 6
- 電源のシャットダウン 6
- ドライバアップデート vii
- ドングルケーブル 6
- ドングルケーブルによるテスト 6

は

- パスワード、root 18
- パラレルコネクタ 7
- ビデオポートへのリダイレクト 35
- ファームウェアアップデート vii

や

- 用語の定義 1, 9, 10

ら

- ログアウト
 - CLI および SSH 18
- ログイン
 - CLI および SSH 18